

日本学術会議からの報告（メモ）

鷲谷いづみ（二部幹事 統合生物学委員会委員長 科学と社会委員会副委員長）

日本学術会議とは

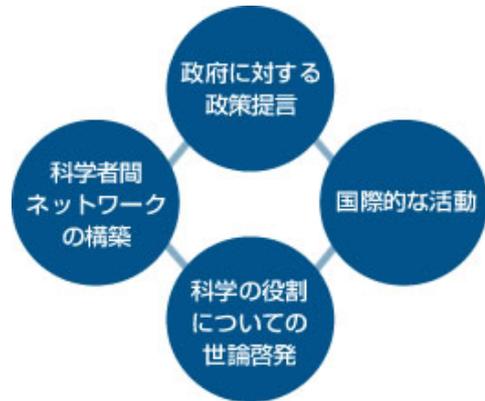
日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立。職務は、以下の 2 つ。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、自然科学の全分野の約 83 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に I 政府に対する政策提言、II 国際的な活動、III 科学者間ネットワークの構築、IV 科学の役割についての世論啓発。

- 日本学術会議には、総会、役員（会長と 3 人の副会長）、幹事会、3 つの部（人文・社会、生命、理工）、4 つの機能別委員会（選考、科学者、科学と社会、国際）、30 の学術分野別の委員会、臨時の課題別委員会、及び事務局が置かれています。



統合生物学委員会

学術分野に対応した活動のために設けられている 30 の分野別委員会のうちの一つ。生物多様性にもっともかかわりの深い学術分野をカバー。

委員長 鷲谷いづみ 委員会の下に 6 つの分科会：自然史古生物学分科会 生態科学分科会 行動生物学分科会 自然人類学分科会 バイオインフォマティクス分科会 生物工学分科会が設置。

統合生物学委員会の COP10 に向けた活動計画

提言（対外発表文書）の作成： 統合生物学委員会提言「生物多様性の保全と持続可能な利用のために：学術分野からの提言」 5 月に公表予定

公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」2010 年 5 月 22 日豊岡市にて開催予定